会 議 記 録

会議名称	令和７年度第１回　杉並区立図書館協議会
日　　時	令和７年６月 28 日（土）午後１時 59 分～午後３時 35 分
場　　所	ふらっとすぎはち（コミュニティふらっと高円寺南・高円寺図書館） １階　第２・第３集会室
出 席 者	委員 鈴木、伊藤、滝田、荻上、三浦、澤村、増田、日向、松林、児玉、内山、岡村、門間 区側 生涯学習担当部長、中央図書館長、管理係長、企画運営係長、 資料相談係長、事業係長、管理係主査、企画運営係主査、 資料相談係主査、事業係主査、柿木図書館長、西荻図書館長、 永福図書館長、高円寺図書館長、宮前図書館長、成田図書館長、 阿佐谷図書館長、南荻窪図書館長、下井草図書館長、高井戸図書館長、 方南図書館長、今川図書館長、中央図書館業務委託責任者
配付資料	・次第 資料１　　第 22 期 杉並区立図書館協議会委員名簿 資料 2-1 令和７年度杉並区立図書館職員体制 資料 2-2 杉並区立中央図書館組織図 資料３　　令和７年度 中央図書館予算概要 資料４　　令和７年度の主要課題（中央図書館） 資料５　　令和７年度図書館サービス評価の実施 ・別紙１ 令和７年度利用者満足度調査票 ・別紙２ 令和７年度杉並区立図書館協議会 年間スケジュール
会議次第	１　開会 ２　第 22 期杉並区立図書館協議会委員委嘱状交付 ３　生涯学習担当部長あいさつ ４　委員紹介（自己紹介） ５　議題 (1)令和７年度杉並区立図書館の体制について (2)令和７年度図書館予算の概要について (3)令和７年度の図書館の主要課題について (4)令和７年度図書館サービス評価の実施について (5)その他 　・次回日程 ６　閉会

○中央図書館長　皆さん、こんにちは。定刻より若干早めですけれども、皆さんお集まりになりましたので、ただいまから令和7年度第1回杉並区立図書館協議会を開催させていただきたいと思います。

本当に、お暑いところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。中央図書館長でございます。今回、会長選出まで私のほうで司会進行させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。着座にてご説明させていただきます。

それでは、まず初めに、杉並区立図書館協議会の委員の皆様方に22期の委嘱をさせていただきます。委嘱状につきましては席上に配付させていただいておりますが、この配付をもって委嘱状の交付に代えさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。また、本日は、13名の皆様方全員にお集まりいただきまして、定員は充足しておりますので、会を進めさせていただきたいと思っております。

それでは、続きまして、このたび生涯学習担当部長の職に、4月1日付で人事異動がございましたので、部長より一言ご挨拶させていただきたいと思います。

○生涯学習担当部長　ただいま紹介にあずかりました、生涯学習担当部長に4月からなりました●●と申します。よろしくお願いいたします。

私はもう区役所で40年以上働いているのですが、これまでは保健福祉と子ども・家庭の分野をほとんどやっておりましたので、この分野を担当させてもらうのは初めてということになります。そういう意味で、今、ちょっと新鮮な気持ちでいます。図書館というのは、人によっては本当に頻繁に利用される方もいますし、ほぼ利用しないという方も中にはいらっしゃると思います。ただ、私が思いますに、人間というのはみんな誰しも知的な欲求というのがあって、学んでいきたいという思いというのは、皆さん、すごく強く持っているのだと思います。

私は、ばりばりの昭和世代ですので、私がいわゆる学齢期を過ごした頃は、勉強というと、ほとんど受験勉強だったんですよね。当時は受験戦争なんていう言葉もあって、偏差値で輪切りにされてしまうなんていうことが話題になったような時代を過ごしました。今の子どもたちは、非常に放課後の過ごし方も多様になってきています。部活なんかの持ち方も、今は大分変わってきています。そうした子どもたちがどういうふうに学校以外の勉強でも、意欲を持って学んでいくのか。それから、もう一方で、寿命が延びまして、まさに、今、人生100年時代と言われていますが、そういう意味では、生涯にわたって私たちは学べる状況にあると思いますので、そうした中で図書館がどのような形でそれに応えて

いくか、非常に重要だと思っています。

そういう意味で、今回、第22期を新たに迎えますけれども、どうか皆様の忌憚ないご意見を頂ければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○中央図書館長　はい。ありがとうございました。

本日の資料につきましてはお手元にご配付しておりますが、時間の関係上、資料の確認はここでは省略させていただきますけれども、それぞれの議題の際に資料番号をお示しいたしますので、お手元に資料がない場合は、近くにいる職員にお声がけいただければと思っております。

次に、次第にあります委員の皆様のご紹介に移らせていただきます。お手元の資料1をご覧ください。この後、議題の中で意見交換のお時間もございますので、ここではこの名簿の順に所属やお名前だけの自己紹介でお願いしたいと思います。

【自己紹介 省略】

○中央図書館長　はい。ありがとうございました。

それでは、続きまして、図書館の職員につきましても自己紹介をと考えております。資料2-1、杉並区立図書館職員体制をご覧ください。先ほどご挨拶させていただきました生涯学習担当部長と私以外の各図書館長と、中央図書館の各係長、主査から、資料の記載順にご挨拶させていただきます。よろしくお願いします。

【自己紹介 省略】

○中央図書館長　続きまして、図書館協議会の規則第5条第2項に基づきまして、会長及び副会長の互選を行いたいと思います。自薦、他薦を問いませんけども、どなたかいらっしゃいますでしょうか。

（　なし　）

○中央図書館長　特にいらっしゃらないようでしたら、事務局といたしましては、会長には、学識経験者ということで、図書館行政にも造詣の深い●●委員に、第21期に続いて会長をお願いしたいと考えておりますけども、皆様いかがでしょうか。

（　拍手　）

○中央図書館長　ありがとうございます。それでは、●●委員に会長職をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、●●委員、すみませんが、会長席にお移りいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（　委員、会長席へ移動　）

○中央図書館長　続きまして、副会長の互選を行いますけれども、どなたかいらっしゃいますでしょうか。

（　なし　）

○中央図書館長　特にいらっしゃらないようですけれども、副会長は会長補佐をするという役目がございますが、会長のお考えはいかがですか。

○会長　はい。できれば、前期に引き続きまして、●●委員に副会長をお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

（　拍手　）

○中央図書館長　ありがとうございます。

それでは、●●委員、よろしくお願いします。

（　委員、副会長席へ移動　）

○中央図書館長　それでは、正副会長の選出が終わりましたので、会長、副会長、それぞれ一言ずつご挨拶を頂戴できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

○会長　はい。前期の第21期に続きまして会長にご選出していただきました、●●と申します。改めてよろしくお願いいたします。

今回、新しく委員になられた3名の方、また引き続きご協力いただく委員の方、それぞれいらっしゃいますが、ぜひこの杉並区のすてきな図書館のために様々な角度からご意見を頂きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○副会長　改めまして、●●です。よろしくお願いいたします。私も前期から引き続いてということになりますので、先輩方がいらっしゃるところで申し訳ないのですけれども、精いっぱい務めさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○中央図書館長　それでは、ここからの議事進行は会長に交代させていただきます。会長、よろしくお願いいたします。

○会長　はい。それでは、協議会の体制がそろいましたので、本日の第1回協議会の議事に入りたいと思います。

まず、次第のほうをご確認ください。本日は、議題といたしまして五つの議題がございますので、次第の順に進めていきたいと思います。

今回の開催時間、おおむね2時間を目安としておりますので、皆様、議事進行にご協力をお願いいたします。また、各委員につきましては遠慮なく発言していただきたいと思い

ますが、皆さんができる限り発言できるよう、ご配慮をお願いしたいと思います。

それでは、まず議題の(1)番、令和7年度杉並区立図書館の体制について、事務局から説明をお願いいたします。

○管理係長　はい。管理係長です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。恐縮ですが、着席して説明をさせていただきます。

それでは、まず初めに、令和7年度の杉並区立図書館の体制についてご説明させていただきます。

杉並区立の図書館は、中央図書館を含めまして13館ございます。そのほかに図書の取次ぎを行います図書サービスコーナーが3か所ございます。令和7年度の組織体制ですが、館長以下、資料で言いますと、資料2-1、それから資料2-2のとおりの体制、組織で取り組んでまいります。

中央図書館では、係は幾つかございますけれども、管理係は庶務事務を、企画運営係は図書サービスの企画や調整、あと地域館の統括及び情報化サービスについて、施設整備担当は、図書館の改築等について行っております。また、資料相談係は、図書の選定や収集、保存、図書館の利用相談を行っております。事業係は、図書館での様々な事業のほか、学校図書館との連携などを行っております。各地域館では、図書館としての貸出、返却などのサービスを行っております。

次に、各館の運営体制についてですが、中央図書館の運営につきましては、カウンター業務を民間に業務委託しております。次に、地域館においては、柿木、西荻、この2館については、区が直接運営をしております。それ以外の、永福、高円寺、宮前、成田、それから阿佐谷、南荻窪、下井草、そして高井戸、方南、今川、この10館につきましては指定管理者が運営しておりまして、館長を含む全員が民間事業者の職員の方となってございます。

指定管理と業務委託との違いですけれども、指定管理ではその館の運営全般について包括的に事業者が行っていますが、業務委託では、中央図書館の場合ですと、窓口業務とか図書館業務の一部につきまして、事業者に委託して行っております。

以上が職員体制及び組織についての説明です。

○会長　はい。ありがとうございます。

それでは、引き続きまして、議題(2)の令和7年度図書館予算の概要についてと議題(3)令和7年度の図書館の主要課題について、この二つについて関連性がございますので、両

方の説明を引き続いてお願いいたします。

なお、質疑につきましては、この議題説明の後に三つまとめて時間を取りたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、説明をお願いいたします。

○管理係長　はい。それでは、今年度の図書館予算の概要について説明をさせていただきます。今度は資料3をご覧いただけますでしょうか。

図書館の予算ですけれども、大きく分けまして、この資料にあるとおり、運営管理費、それから維持管理費、そして3番目の移転改築経費の大きく三つの枠組みから成り立っております。

まず一番最初の運営管理費ですけれども、これは図書館サービスの本体に係る経費ということになります。主な大きな経費としましては、図書館業務の委託経費、そして図書資料の購入経費です。今年度につきましては、こちらの運営管理（業務委託等）というところで前年対比で増額しておりますが、これは中央図書館の運営業務委託料、それから図書サービスコーナーの運営委託料及び図書館資料の相互回送車に係る費用において、主に人件費の増額に伴う増となっております。

また、情報環境の提供につきましては、今年度新たにデジタルアーカイブ化構築委託の関係経費を計上したことにより、増額となっております。

それから、業務端末等のシステムを動かすための経費として、図書館システム管理というところがありますけれども、こちらはICタグシステム関連機器の増や機器賃借料の増などランニングコストの増というものがありますが、当初の導入業務委託料が減ったことや昨年度の高円寺図書館の開設に伴うシステム機器の移設委託経費が大幅に減となっており、合計としては対前年度比で減額となっております。

中央図書館で計上する予算では、その他、講演会や講座等の事業を行う経費となっております。それ以外の細かいところでは、イベント等のポスター、チラシなど印刷物の作成ですとか文房具の購入などの、そういった事務的な経費が含まれております。

また、指定管理等の運営委託経費、これについては地域館というところに含まれておりますが、こちらは新たに高円寺図書館が区の直営から指定管理になったということで、その運営管理に係る経費が大幅に増額となっております。

次に、2番目の維持管理費についてですけれども、こちらは区の直営部分に係る経費となりますが、エレベーターですとか自動ドア等の保守や維持管理、それから光熱水費の支

払いなど、施設自体の維持管理に充てる経費となっております。こちらは高円寺図書館が区直営でなくなったことから、逆に高円寺図書館の関連経費が大幅に減となっております。

3番目の移転改築経費ですけれども、これは高円寺図書館の移転改築に係る経費になります。こちらは高円寺図書館の建設工事が終了したということで、今年度はそのまま全額減額となっております。

以上が本年度予算の概要でございます。

では、引き続いて、次の議題の説明をさせていただきますが、説明員を代わらせていただきます。

○中央図書館長　はい。それでは、中央図書館長の私からご説明をさせていただきたいと思います。議題(3)の令和7年度の中央図書館の主要課題について、資料4でご説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

今回の令和7年度主要課題は3点を挙げてございまして、第1点目は歴史的資料のデジタルアーカイブ化です。

私ども中央図書館では平成29年度から図書館にある行政資料など歴史的な資料をデジタル化する作業を進めておりますが、昨年までに約700のタイトルをデジタル化してまいりました。このデジタル化を引き続き進めていくとともに、これらのデータを公開して、広く区民などに提供し、活用していただくデジタルアーカイブ事業を、郷土博物館などと連携しながら、今年度内の実施に向けて取り組んでまいります。

2点目は、宮前図書館及び柿木図書館の改築です。

まず、宮前図書館についてですが、昨年度、西宮中学校及び周辺地域の老朽化した施設の更新等に関する検討におきまして、地域住民の方との意見交換を行いました。それを踏まえて一部修正した区の施設マネジメント計画において、宮前図書館と、現在併設しているさざんかステップアップ教室を現在の地で改築するということになりました。改築工事は令和12年度に着手し、数年間かけて工事を行う予定としてございます。今年度はそれに向けた改築基本方針策定の時期など、整備に係るスケジュールの確認や休館中の課題の整理などを進めてまいります。

次に、柿木図書館につきましては、宮前図書館と同様に、周辺地域の施設を含めた施設更新等に関する地域住民との意見交換を行います。

この意見交換を8月下旬から来年度前半まで行いまして、改築の方向性を見定めた上で、改築時期を含め、施設マネジメント計画を修正していく予定としてございます。

3点目は、ICタグシステムを利用した図書館サービスの充実です。

令和5年度から導入を進めておりますICタグシステムですけれども、昨年度は自動貸出機の設置が全館で完了しました。今年度は各館の利用状況を踏まえ、導入の効果の検証を進めてまいりたいと思います。また、中央図書館と今年度4月に移転した高円寺図書館に予約資料の受取棚を先行して設置しましたけれども、その利用状況を確認して、他の地域館への配置を検討してまいります。

資料の裏面にお移りください。裏面になりますけれども、主要課題以外の課題といたしまして数点挙げてございますので、簡単にご説明いたします。

まず1点目は、移転改築した高円寺図書館等複合施設の検証です。本年4月に、ここ、旧杉並第八小学校跡地に整備し、開所した高円寺図書館等複合施設でございますけれども、併設する区立すぎはち公園がこの8月下旬に開園し、グランドオープンを迎えます。これらを一体的に管理運営する指定管理者の実施状況を把握いたしまして、課題の確認と検証、必要な支援を行い、施設の安全確保と、利用者に対する満足度の高いサービスの提供を図ってまいります。

2点目は、電子書籍の導入に向けた検討です。現在23区のほとんどが導入している電子書籍ですけれども、導入区からは課題がいろいろあることを伺っております。しかしながら、図書館へ来館することが困難な方へのサービス提供としては一定の効果がございますので、今後課題の整理など、導入に向けた検討を進めていきたいと考えているところでございます。

3点目は、ボランティアの育成と活用です。昨年度は、すぎなみ地域大学と連携いたしまして、音訳ボランティアの育成を図りました。今年度は、本の修理と、そして朗読のボランティア、この二つのボランティアの育成に取り組んでまいります。

今年度の課題についてのご説明は以上になります。

○会長　はい。説明ありがとうございます。今年度の杉並区図書館全体の体制、そして予算、今年度の主要な課題とその他の課題というものをご説明いただきましたが、この3点をまとめまして、皆様のほうからご質問等ございますでしょうか。

○会長　それでは、委員、どうぞ。

○委員　ちょっと気になりましたのが、宮前図書館、柿木図書館の改築というところですけれども、中野サンプラザとか、建設費が高騰して、計画見直しみたいな話もあるところでございまして、宮前図書館、柿木図書館の想定されている費用がさらに上振れしたらど

うなるのかとか、あるいはこの――これは、移転ですかね、改築というのは。

○中央図書館長　現在地での改築です。

○委員　ああ、なるほど。で、どれくらい必要性があることなのか。例えば老朽化がどうなのかとか、スペースが手狭になったのかどうなのかとか、利用者数がどうなのかとか、必要性とか、そのメリット、デメリットをどのようにお考えなのか、ちょっと教えてください。

○中央図書館長　はい。中央図書館長です。

宮前図書館もそれから柿木も、もう50年、60年という月日がたちまして、区の中でも、図書館の中でも、もう本当に、古さで言うと、1番、2番というところになるんですね。ですので、老朽化に伴って、狭さとか、それから、今要求が高い、例えば閲覧席の問題とかがありまして、中でもまず一番大きいのは老朽化なんですね。例えば、これは本来備わっているべきバリアフリーのトイレがなかったり、それから一番顕著なのが、例えば柿木だと、エレベーターがないんですよね。ということになると、車椅子で来ても、上に上がったり下に降りたりすることができないとかがありますので、やはりもう、これはもう限界だろうというところがあります。

それと、宮前図書館におきましても、やはり同じように老朽化で、例えば空調が壊れ、今、本当に片肺で動いているという状態でもあり、メンテナンスをしていくだけではもう済まないということもあります。これを現地改築しようという話になりましたので、これから4年、5年先にはなりますけれども、その間にどういうあつらえをしていくかを検討していこうと思います。これまでに、建築において、一番は、建築費もそうですけれども、部材が入らないということもあったんですね。例えばこの高円寺でも、実はいろんな要因があって、出来上がるのに時間がちょっとずれたということもありました。どういう要因がこれからあるか分かりませんけれども、それらも踏まえながら、やはりどうしても老朽化、これは避けて通れないところなので、この際、一気にやってしまおうと考えているということでございます。

○会長　はい。どうぞ。

○委員　今のご質問の宮前図書館に関してですけども、私もたまたま地元が久我山でありますので、この審議会でも、私が去年委員になったときにちょっと話題になったと思いますけど、この宮前図書館については西宮中学と一緒に、結構検討が、ワークショップというんでしょうか、地域住民との話合いも、3次、4次、5次ぐらいまで続いたところで、ち

ょっとよく、詳しい事情は分かりませんけど、我々区民から見ますとどんでん返しのように中止になっちゃって、まだよりよいものができるんならそれでもいいと思うんですけども、たまたまこの課題を見ますと、12年度から着工というのは、今いろいろご説明ありましたように、建築費の高騰とか材料の確保とかいろいろあるのかもしれませんけど、今から見て5年後に着工というのも、何かちょっと遅いような感じもするんですけど、その辺はいかがでしょうか。

○中央図書館長　これ、実は、指定管理者の方々が5年間、指定管理をするということがありまして、今後、7年度から5年間ということになると、ちょうど11年度までがその期間になると。

○委員　なるほど。

○中央図書館長　で、その途中で改築するかしないかという議論もあったのですが、いろいろとメリット、デメリットを考えると、やはり1回、区切りのいいところでやっていこうと最終的に区で判断したので、ちょっと先に延びているとみえますが。

　ただ、実は、改築の計画を立てて、それから基本設計、実施設計をやると、大体2年から3年とたってしまうということもあったりするんですね。そういうこともあると、やはり、時間的にはすごく先に見えるのですけども、計画を立てて工事までいくには大体順当な流れかなと。ただ、さっき言ったように、施設では、空調なんかはいろんなエラーが出てきているということがあるので、そういうところをこれからも何とかだましだましやっていくという形になります。

　それから、先ほど言った、西宮中学校と合築をして図書館を建てようという形で最初はあったんですが、これからどういうふうに整備していくかということについて、地域の方々の意見をもらいまして、1年半かけて考えてきました。そうして、結果的には今のままで現地改築が図書館としても一番いいだろうということになりました。移転改築だと、あまり移転するまでの時期というのがそれほどかからなくて済むのですが、現地で工事するということになると、結構時間がかかってしまうので、改築するのにその先どれぐらい時間がかかるかということはこれから考えていくというところになります。

○委員　ありがとうございました。西宮中学との関係は私も理解しているつもりですけども、ここからは要望というか希望になりますけども、今日のここ高円寺図書館も、前に内覧会のときはただ施設を見るだけでしたが、今日はこの会議の前に見ましたら、例えば調べる部屋とか、いわゆる若い人たちでほとんどの席が満席になって、空いている席がない

ぐらいでした。私も地域的には永福図書館を時々会議で使うのですが、あそこも結構若い方が非常に大勢利用されていて、そのおかげでその図書館の利用率も上がっているというふうに聞いています。そういう意味ではぜひ、宮前図書館も場所的には少し交通の便が悪いかもしれませんけど、ぜひ地域の若い人たちが利用できるような、特にここなんかを多分モデルにされるのかもしれませんけど、そういう開放された、地域との関係性の強い図書館を希望しますので、よろしくお願いします。

○中央図書館　ありがとうございます。やはりこれからどういう形で、建築すると、50年、60年使うという形になりますので、その先を見据えてどういう図書館が望ましいのかということを考えなければいけないと思います。それを踏まえて、やはり仕込みというか、しつらえを考えていきたいと考えているところでございます。

○委員　はい。よろしくお願いします。

○会長　ほかにご意見等ございますでしょうか。

　また後ほどお時間を取って、この主要課題やこれ以外の課題についても、ぜひ皆様からのご意見も頂きたいと思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

　それでは、よろしいでしょうか。

（　なし　）

○会長　それでは、取りあえず、この三つの議題については、ご承認ということで、よろしいでしょうか。こういう形で今年度進めていきたいと思います。

（　了承　）

○会長　それでは、続きまして、議題(4)令和7年度図書館サービス評価の実施につきまして、説明のほうをよろしくお願いいたします。

○中央図書館長　はい。それでは、引き続き、私からご説明させていただきます。議題(4)の令和7年度図書館サービス評価の実施について、まず、資料5をご覧ください。

　この評価は、「杉並区立図書館経営評価実施要綱」に基づきまして、図書館サービス及び事業について毎年実施しているものでございます。よって、実施方法はこれまでと変更はございません。今期初めて委員になられる方もいらっしゃいますので、本日は評価の流れについて、簡単にご説明させていただきたいと思います。協議会での具体的な評価などについての説明は、第2回の協議会でと考えております。

　それでは、資料5の中ですが、評価の対象及び基本的な考え方、これについては資料に記載のとおりでございます。

実施方法としては、①の各図書館が行う自己評価につきましては、これは既に実施済みです。②の利用者満足度調査につきましては、後ほど別紙にて説明をさせていただきます。③にある中央図書館が行う自己評価につきましては、①の各館の自己評価などを基にして、中央図書館が区立図書館全体の評価を行うものでございます。第2回協議会におきまして、6年度の実績等を皆様方に報告した後、中央図書館が運営状況をここにまとめます。その報告内容を基に、年末の協議会図書館サービス評価部会、といっても、これは協議会の委員全員による作業部会になりますけれども、そこで具体的に評価等を行いまして、親会である協議会、第3回協議会で、評価を含めた運営状況報告を承認するという流れになっています。その後、運営状況報告を教育委員会に報告し、公表ということになります。

簡単ですけれども、今年度の図書館サービスの評価、主に実施の流れについてのご説明は以上になります。参考として、主な年間スケジュール（予定）をご覧いただければと思っております。

それでは、続きまして、図書館サービス評価のうち、令和7年度図書館利用者満足度調査について、資料5の別紙をご覧いただければと思っております。

昨年度第3回の図書館協議会においてご説明いたしました利用者満足度調査ですが、その際にいろいろご意見を頂戴いたしました。そして、例年5月に実施していた調査を、令和7年度につきましては、第1回の協議会で調査票をお示しした後に実施することとなりました。そのときのご意見を参考にいたしまして今回の調査票を作成いたしましたので、7月からの実施に向け、調査開始前の今日、改めてお示しするものでございます。なお、各問いの質問項目につきましては、経年でこれ、比較している関係もあることから、変更はしてございません。基本的にはこれで調査を進めたいと考えているところでございます。

それでは、今回変更した主な点などについて、簡単にご説明いたします。

まず、最初のフェイスシートの部分ですけれども、今回、来館の頻度等において、今回利用するまでに1年以上ブランクが空いている、久しぶりに利用したということを想定いたしまして、これは前回ですけども、⑥の「1年以上利用しないときもある」から、今回、「1年以上利用していなかった」に変更いたしました。また、図書館を利用しない方でも図書館ホームページを見て調査票を出してくるということも考えましたので、⑦として「全く利用しない」という選択肢を設定いたしました。併せて、その下段で利用しない理由を記入によって伺いまして、そのまま問7、その他に飛びまして、充実させるサービス項目と図書館に対する意見を伺うようにしています。また、スマホなどで回答する場合、

利用館が不明になることになりますので、今回、主に利用する館を聞くようにしてございます。

次に大きな点といたしまして、各回答において、これまで「満足」「不満」の中間で「どちらともいえない」という、ともすれば、これ、曖昧にも取られがちな選択肢を、「わからない」というふうに、はっきりとさせました。前回の協議会では「わからない」という選択肢に引っ張られるんではないかというご意見もございましたけれども、選択肢の後ろのほうに持ってきまして、今回、今年度はひとまずこれでやっていこうと考えているところでございます。

また、問4-5、図書館ホームページへの情報発信におきまして、これは昨年度変更した図書館ホームページのトップページにある項目を選択肢としてございます。

次の問5、ICタグシステムの満足度については、昨年度ICタグシステムの自動貸出機を全館に設置して稼働を開始していましたから、その利用についての満足を伺うために質問項目を新規追加したものでございます。

さらに、問7-1、特に取り組んでほしい図書館サービスの選択肢5の「バリアフリー図書の充実」で、バリアフリー図書とは何かということの用語の説明が必要ではないかという話がありましたので、その説明を簡単ですが表記させていただきました。

次に、実施についてですけれども、例年は5月中の3日間を基本としておりましたが、今回は7月の上中旬の5日間での実施を考えております。各館の調査票の配布は300枚程度、回収を最低200枚以上、率として、できれば70％以上を目指します。

各館ごとの集計後、結果を協議会委員の皆様にお示しし、今年度の図書館評価の参考になるようにと考えているところでございます。

今年度の利用者の満足度調査についてのご説明は以上になります。

〇会長　はい。説明ありがとうございます。

こちらにつきましては、結果につきましては次回の協議会で説明が詳しくあると思いますが、今回の全体的なサービス評価の実施のスケジュール及び満足度調査につきまして、何かご質問等ございますでしょうか。基本的には、前年度までの様々なご意見を伺いまして、今年度改良したものをお示ししてありますので、取りあえず、来週、7月の5日間ということなので、来月、すぐ行うアンケートとなりますので、こちらで利用者満足度調査は行っていきたいということになりますが、よろしいでしょうか。大丈夫でしょうか。

委員、どうぞ。

○委員　この調査の、冒頭の来館の頻度の①の表現って、これは前からこうなんでしたっけ。「初めて利用して数回程度」と。何かちょっと、ぱっと見て、何か若干分かりにくい気がしたんですけど、前からこうでしたか。

○中央図書館長　前からこれで。

○委員　そうですか。はい、分かりました。それから、問5のICタグシステムなんですけど、タグって、多分本に、何か表紙をめくると、こう、何か細い、白いのがついているやつですよね。本についているシステムというのがちょっと頭に浮かんで、その後の括弧の「（自動貸出機、予約本コーナー）」のほうに、何かあまりイメージが湧かない感じがしまして、ここで聞きたいのは本についているタグのことを聞きたいのか、それとも自動貸出機や予約本コーナーのことを聞きたいのか、どっちなのかなと思ったときに、後者だとすると、別にICタグシステムと書かなくてもいいのかなという気がしたんですけど、どうなんでしょう。

○中央図書館長　はい。確かに私どものほうで、今回伺いたいのは、そのシステムというか、要は自動貸出でどれぐらい自分たちの利便性が図られているのか、これが使い勝手がいいのか悪いのかというのを聞きたいところがあります。確かに今おっしゃったように、ICタグシステムに注釈を加えた形ですが、本丸はどちらかというと自動貸出機の使い具合とか、そういうところになると思います。ですので、そこの語句は、少し変えてもとは思います。

○会長　はい。

　どうぞ、委員。

○委員　昨年度、予約図書の引取りに関して、棚を設置してシステムを変えましたよね。そうしたら、今、ばらばらに置いてあるんですよね。1人の方が5冊、例えば予約すると、その本がばらばらに置いてあって、自分で取りに行くシステムになっていますよね。で、利用者さんに、新しく変えたシステムなどがあるとしたら、こういうアンケートに反映させて、そのシステムが使いやすいかどうかというのをお聞きしたほうがいいんじゃないかなと私は思うのですけれども。

○中央図書館長　はい。実は予約棚というのは、先ほど少し触れましたけど、中央図書館と高円寺しかないんですね。予約棚については、実際に予約棚を使っている方々に聞いたほうがより効果的なのかなというのはありますので、今回は自動貸出機だけに絞って聞いたほうがよりいいのかなと、私も感じているところがあるので、また別の枠で予約棚の使

い勝手については考えていきたいと思います。

○委員　すみません。今のお話で、これ、先ほどの資料4で、今年度の主要課題の一つという認識でよろしいですよね、今の予約棚のお話も。とすると、せっかくなので、やっぱりこのアンケートできちんと聞いたほうがいいんじゃないかなと思いました。

　例えばなんですけれども、このアンケート全体の表現との整合性も踏まえると、例えば、今、問5と一つになっているものを、例えば上の問4-3とか問4-4と表現をちょっと合わせて、例えば問5-1で「自動貸出機の満足度を教えてください」、で、例えばその5番が今「わからない」となっているところを、例えば「利用したことがない」というふうにして、上もそうなっているんですけど、じゃあ、「「利用したことがない」と回答した方は理由を教えてください」というような形にして、理由を聞く。例えば「知らなかった」とか、何というんですか、「窓口のほうが楽だから」とか、何かそういう理由にして、一つ、問5-1を自動貸出機の問いにして、例えば問5-2を予約本、何か予約棚の設問にすると、多分両方、今回、主要課題と掲げていることに関して、両方このアンケートの中で聞けるかなと。しかも、全体のアンケートの作りが比較的似ているので、答える側からすると、あまり、急な、何か何でこの設問があるんだろうというようなこともあまりなく、うまく作れるのかなというふうには思いました。

○中央図書館長　先ほど申し上げたように、今後予約棚をどうしていくかというのは、もう少し深掘りしていかなければいけない項目なので、満足度を聞くというよりは、どういう使い勝手であって、どうしたらいいのかというのをもっと細かく、ピンポイントに聞かなきゃいけないと思うので、全区的に聞く項目ではなく、設置館で個別に聞くことがいいのではと思います。違うタイミングでやっていったほうが、逆に、予約棚を全然見たこともない人がこれを聞かれても、何のことを言っているんだろうと思ってしまうことから、別の機会で考えるほうが得策かと思っています。

○委員　まあ、それも分かるのですが、予約本コーナーがいきなりできるよりは、例えば柿木とかも、改築して備えるようになるわけですよね。ほかの館にも、もしかしたら広がっていくかもしれない。まあ、場所が必要なんですけどね。それでしたら、予約本コーナーというのはどういうものなのかというのを、今回の中央図書館のときも何か一般の人たちは知らずに予約本コーナーがいきなりできて、ちょっと戸惑ったような感じもありましたので、この調査によって知らない人たちにも知ってもらえるという利点もあるのではないかなと思います。

○中央図書館長　ありがとうございます。今の話も一つの考え方かなと思うところですけども、周知の問題や、どういうふうに使っていくのかという問題は調査とはまたちょっと違う次元になるのかと思うのです。これはあくまでも利用者満足度調査であって、区の中の全体的な満足度を測るものなので、ある程度私は線を引いたほうがいいのかなという気はします。

○会長　はい。予約本コーナーと言われても、使ったことがない人はまず分からないし、あと、ほかの館は全く違う形になっていたりすると、その人たちが思う予約本コーナーというイメージが全く違ってしまいますので、この全13館ある全ての館で一律で行う利用者満足度調査の中で、この個別の予約本コーナーについて具体的な話を聞いていくというのは難しいかなと、今のご議論を聞く中では感じました。その辺も含めて、この問5につきましては、先ほど委員からもあったご意見も踏まえて少し設問をご検討いただいて、ここは変わるかもしれないということで、おおむねの趣旨としては、まず全館にある自動貸出機がよかったか悪かったかについては、図書館としてはまず聞きたいということは皆さんご承知だと思います。予約本コーナーの扱いにつきましては、またご議論いただいて、恐らく委員のほうも中央館で予約棚が入ったときに多分使い方が変わったということについて戸惑いもあったりもしたのかもしれませんので、そういうところも含めて、改めてご検討いただくということでよろしいでしょうか。委員の皆様も、ご意見として、協議会としてはこういうご意見を示したということで、アンケートのほうについては7月に実施していこうかなと思います。

今の話以外の話でありますでしょうか。どうぞ、委員。

○委員　問4-5におけるホームページでの情報発信の中にデータベースサービスが含まれている、という点についてのご質問なんですけれども。

図書館ホームページでの情報発信というと、館内利用者以外の館外の方、区民以外のインターネットに接続された方々に向けたサービスというイメージでいるんですけれども、その中でデータベースサービスというと、私の認識不足かもしれないんですが、館内の方に対して利用があった場合に提供するサービスという理解でいて、ホームページでのサービスとちょっと切り分けてデータベースのようなサービスは位置づけたほうがいいのかなというふうに思ったんですが、その辺りはいかがでしょうか。つまり、来館されていない方でも区のデータベースサービスを利用できるようであれば別にこれでいいと思うんですけれども、というご質問です。

○中央図書館長　申し訳ございませんでした。やはりホームページからはつなぐことができないので、もしあれでしたらここは削除する形のほうがよりいいのかもしれません。

○委員　あ、いや、削除というよりは、データベースサービスをなさっているんであれば、当然有料で契約をなさって、区民に対して利用提供していると思いますので、その費用対効果などを図っていくという意味で、データスベースサービスを別建ての質問で載せていただけるといいんじゃないかという趣旨でした。ご検討いただければ幸いです。

○中央図書館長　はい。先ほども申し上げた、期日が迫っている部分があるので、我々も貴重なご意見だと思いますので、そのデータベースのこういうサービスとかいうものは本当に大事なサービスではあるので、それをご意見として今後のところに生かしていきたいなというふうに思います。ありがとうございます。

○委員　ありがとうございます。

○会長　はい。こちらの、ずっと同じような設問で来ているという比較の部分もありますので、新しい課題については、別途アンケートなり調査を図書館のほうで企画していただきまして、例えばデータベースの見直しのときとか、今、公共図書館ではあまりないですけど、インターネットから接続して、図書館に行かなくてもデータベースが使えるサービスを始める、始めないとか、主要課題にもありますが、電子書籍の貸出サービスを始めるのと同時にお聞きする。それについての意向調査も含めて、別途ご質問をしたほうがいいかなと思いましたが、取りあえず大きく設問を変えるのは難しいということですので、ご意見として図書館のほうに伺ったということで、よろしくお願いいたします。

○委員　はい。よろしくお願いします。

○会長　はい。委員、どうぞ。

○委員　すみません。問4-5のところで、12番、座席予約システムとあるわけですけれども、これは新しい取組としてしばらく運用されてきているところかなと思いますが、戻りまして、例えば問3-4ですとか、閲覧スペースの満足度みたいのあるんですけども、この中では座席予約システムそのものの満足度って、多分拾えないのかなという気がいたしまして、それについての満足度とかは聞かなくていいんでしょうか。

○中央図書館長　はい。座席予約システムの利用状況とかも含めて満足度はどうなのかというのと、またそれを基にしてどういうふうにシステムを変えていかなければいけないという時期ですが、何分まだ半年たっていない部分があるので、それはいずれ聞いていこうとは思ってはいます。今の段階では、こういうのについてどう見ていますかということだ

けは聞く。ただ、そこの意見はいずれしっかりと聞いていきたいと考えています。

○委員　ちなみに、利用率とかはどんな感じだとかは分かりますか。

○中央図書館長　はい。今までは本当に閲覧席に鞄を置いて一日全然使われないという状況もあったのですが、このシステムを使うことによって、48席がいっぱいになっているというのは、例えば試験前の土日とか、そういう時以外はある程度空いている状況もあります。ただ、逆に、これは余談になってしまいますけども、今、1日1回3時間までが利用の限度なんですね。で、空いているんだから、もう一回貸してということも私どもも要望として聞いています。そういうところも含めて、今後どういうふうにしていったらいいかと聞き取りをしなければいけないかと思っています。利用に関しては全く、いつも満員、満杯という状況からは脱しているということになります。

○会長　はい。問4-5の趣旨は、ホームページでこういうページを見たことがありますかという設問になりますので、個別のページの内容がよかったか悪かったかとかというのは、別途また聞いていただくという形になると思いますので、ぜひ、それは図書館のほうでも、やはりいろいろ細かくアセスメントしていくべき部分だと思いますので、よろしくお願いします。

　では、こちらにつきましては、このスケジュール……

○委員　あと、もう一つすみません。いいですか。

○会長　どうぞ。

○委員　とても単純なことなんですけど、これを見て、ちょっと見づらいなと思ったんです。細かく見ていくのが何か面倒と思ったのはなぜかと考えたんですけど、みんな活字が全部一緒。活字、表題やら何やらとちょっと変えたほうが、答えるところの活字を変えるとかしたほうが、もっと見やすいんではないかなと思います。

○中央図書館長　その部分については、少し検討する余地があるかなと思います。ありがとうございます。確かに同じフォントで使っていますので、何かできる範囲で考えていきたいと思います。

○会長　委員、どうぞ。

○委員　すみません、これまでご審議された結果でこちらができていると思うので、今日、私、初めて拝見して、もしかしたら、ちょっととんちんかんなことを言うかもしれませんが。

　問3の設問がちょっと、大きい設問がちょっと違和感があって、「図書館の設備は利用

しやすいですか」と来ていまして、「利用しやすいですか」と聞かれると「はい」か「いいえ」、「ノー」ぐらいになっちゃうと思うんですけども。例えば問4のほうは「図書館のサービスは、あなたにとって満足いくものでしょうか」というような書き方があるので、問3のほうも「図書館の設備は、あなたにとって満足いくようなものでしょうか」みたいな聞き方のほうがバランスが取れているような気はしたんですけども、いかがでしょうか。

〇中央図書館長　はい。確かにそうですね、同じような、何を聞いているかということの後のところで「利用しやすいですか」とか「満足いくものでしょうか」というのは、この辺を合わせていくというのは、答えやすさにもなるかなと思いますし、大きな項目の変更ではないので、そこのところはもう一度ちょっと考えてみたいと思います。

〇会長　はい。それでは、こちらのスケジュールと利用者満足度調査、修正が入ると思いますが、また修正されたものにつきましてはメール等でご連絡いただくということでよろしいですか。最終的にこの設問でアンケートしますということにつきましてはメール等でご報告いただくということで、よろしいでしょうか。大筋としては特に問題はない、今までの継続性を重視していますということで、ご了承いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

（　了承　）

〇会長　はい。本日、主要な議題は以上となっております。まだちょっとお時間がございますが、これまで各議題についてのご質問とか、特に、今回お示しいただきました主要課題やその他の課題、もしくは杉並区の図書館の今後について、皆様からご意見を頂きまして、図書館側、もしくは本日、生涯学習担当部長にもご臨席いただいていますので、区のほうに今後図書館の在り方や、また、場所、お金とか運営の仕方とか、いろいろ、フリーにご意見を頂ければと思いますが、何かありますでしょうか。いきなり言われてもあれかもしれませんが、主要課題などを見ていただきましてご意見があればと思いますが、いかがでしょうか。

なお、私たちみたいな学識経験者が話してしまうと、お説教になっちゃったりする場合があるんで、ぜひ区民の皆様に率直なご意見を頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

ここまでの議論でもいろいろ、予約棚の話とかデータベースの話とか、いろいろあったと思いますが、いかがでしょうか。

委員、どうぞ。

〇委員　今回の議題とか主要課題とかに出ている話ではないんですけれども、図書館にお

勤めの方々の置かれた状況というものをネットの記事とかで見たりすると、待遇のところがちょっとつらいよみたいなお話ですとか、あと、会計年度で任用されて先が見えないであるとか、そういう、働いていてつらい話みたいなのを、結構、目にするんですよね。で、区民からすると、図書館にお勤めの方々が、知識、経験、ノウハウ、そういったものをどんどん蓄積していって、そういうベテランの方がいるぞと、聞いたら何でも答えてくれるし、レファレンスもすごいしみたいな、そういう方々がいる図書館が杉並区にあるということが区民にとっての財産なのかなというふうに思っているんです。

この資料2-2を見ますと、常勤が36、再任用が19、会計年度が30と、ほかにも業務委託とかもあったりするんでしょうかね、窓口とか。それはいない。

〇中央図書館長　杉並区の図書館では、13館のうち、先ほども説明いたしましたけども、中央館は窓口業務は委託で、全く区の直営の職員というのは2館、それ以外は指定管理者制度を使った指定管理館になります。

〇委員　指定管理の方々も多分すごく努力されていると思いますし、そこを何か問題にするというつもりはないんですけれども、できるだけ長く勤められて、安心して働けてというほうが、やっぱりスキルを身につけていこうというモチベーションにもつながったりするところなので、そういった待遇改善みたいなところについても取り組んでいただきたいと思っているんですけど、その辺について何かあればお願いします。

〇中央図書館長　はい。図書館の館長会などを通じましていろんな話をしているところですけれども、やはりそれぞれの指定管理の方々については、育成プログラムとか、待遇とかというのはすごい努力されている部分があって、今回、7年度から多くの指定管理館がまた5年間の指定という形になった中で、人材育成のプログラムがしっかりできているというところや、それから、なるべく長く勤めていただくような仕組みを評価させていただいて、選定したというところがありますね。

杉並区においては公契約条例というのがありまして、これは都の最低賃金よりも高いのですが、最低これだけの賃金は払ってくださいということをしっかりとうたっていて、それは指定管理にも同じように適用しているというところもありますので、ほかの区から比べると、その辺のところはしっかりと縛りをかけているというところもあります。

あと、年齢によってはいろいろ違ったりしている部分がありますので、一概には言えない部分がありますけども、私どもとしては、逆に直営館としては、その指定管理者の方々がどういう研修をしているか、育成をしているかというのも伺いながら、それを取り入れ

ていきたいなと逆に考えているところもあるので、切磋琢磨しながら、杉並区全体の図書館のレベルを上げていこうと努力はしているところです。

○生涯学習担当部長　ちょっといいですか。すみません。少し補足させていただきたいんですけど。

　委員から今頂いたご指摘というのは、図書館というものを運営していく上では非常に大きな課題と言われている部分で、特に、直営で運営する場合に、一つ大きな問題となるのは、図書館といえども杉並区の組織の中の一つなものですから、基本的には図書館の職員がずっと図書館にいるわけではないということなんですね。いろんなところを回っていく中の一つの職場であって、司書資格を持っている方であっても、ずっと図書館にいるということは、必ずしも保証できているわけではないということと、それから、これは23区全体での話ですけども、司書という資格がいわゆる職種として確立していないという言い方なんですかね。例えば、保健師さんだとか保育士さんだとかのような、そういうような職種として、一つの何か待遇が確立しているわけではないというところがあるので、そこも、これは特別区全体の問題ですけど、そういうことも今後考えていかなければいけない一つの問題にはなっています。ただ、今、そういう中でどういうふうな運営をしていったらいいのかということを、我々は考えていかなきゃいけないですし、ただ、どちらかというと、今、指定管理でやってもらっている民間事業者さんのほうがそこで長く働けるというふうに考えてそちらを選ぶという方もいるというのが、実情としてはあると、そういうような状況です。

○会長　はい。非常に重要な、重要なというか、でっかい問題提起を頂いて。図書館、今日いらっしゃる、図書館司書を育てる、学生さんに司書資格を出している側としても非常に重大な問題ではありますが、解決も難しいというか、社会全体の中で考えていかなきゃいけない問題かなと思います。

　ただ、一つ言えるのは、杉並区として、どの――皆さんがですよ、皆さんが図書館にどのくらいお金を払っていただけますかというお話で、一回一回の利用は特にお金を払わないですけど、実は別途、杉並区として図書館にお金を払っているわけなんですね。そのお金を増やすか減らすかというお話が別にございますが、そこの中で、そこはもう、ここの場というか、政治的なお話になってしまいますが、ぜひご検討いただいて。

　私も、この図書館が13もあるというのがすごくびっくりしてですね。私、今、八王子市に住んでいるんですけど、ほぼ人口は同じなんですが、八王子には三つしかないんですね、

図書館は。駅の近くにぽんぽんぽんとあるだけで、ほぼ中央線の真ん中にあるだけで。それに比べたら、そういう比較は、杉並区がよければもっといいところだとかありますが、ぜひモデル的になっていただけるとすごくうれしいかな、なんて個人的には思います。

今、委員がおっしゃったように、やはり図書館のお仕事って、何年も何年もやっていく中で、例えばこの図書館にある本の、例えばある程度の概要とかを知るだけでも結構時間がかかるんですね。そういうところを考える上でも非常に経験というものが必要になってくると思いますが、これは多分、人に関わる、子どもとか人に関わる職種、多分全部同じだとは思いますが、ぜひ皆さんの中でも考えていただければな、なんて思います。

ほかにございますでしょうか。どうぞ。

〇委員　ありがとうございます。すごく小さな話かもしれないんですけど、協議会で図書館の中身の話はよく出るんですが、外側はどうなんだろうと思いまして。

私は中央図書館から徒歩圏内に住んではいるんですけれども、本を借りるときは重たいから自転車で、リュックを背負って行きたいなと思って、つい自転車に乗って行っちゃうんですね。すると、自転車置き場がとにかく狭くて、何か段差があって使いにくい。皆さん本当に譲り合って使っていらっしゃるので嫌な思いはしていないんですけど、そこにシェア自転車というんでしょうか、が入ってきてしまって。えっ、ただでさえ狭いのに、場所が減ったと。もちろん外側もお金がかかることですし、場所に限りはあるかと思いますが、もうちょっと、ここはなかなか広くて快適だったんですけど、そこら辺も議論の対象というか、ちょっと考えていただきたいなと思っています。

〇中央図書館長　ありがとうございます。シェアサイクルについては、区の施策として自転車を活用するという中の一環で、1回、場所を少しずらしてみたのですが、それより中央図書館のすごい悩みというのは、実は図書館を利用されていないのに自転車を置いている状況があるということですね。ただ、駐輪を厳しくするのもどうなのかというのがあって。

私が、今、朝8時ぐらいに来るとき、もうそこに自転車を停めているんですよね。まだ、図書館は開いていないのに。休館日でも停まっていたりするんで、その辺のところも悩ましいなというのはあります。なるべく譲り合って駐輪場を使っていただきたいなと思っているところですが、ただ、自転車も大型化してきていますよね、今。本当に大きな自転車になってきた。だから、置く場所がなかったりするので、なるべく問題が大きくならないような形で整理をしていくようには考えていきたいなと思っています。

○会長　これから宮前図書館とか柿木図書館は、具体的にその施設、周りも含めて、この高円寺もそうなんですけど、建物だけじゃなくて建物の周りも含めて、いろいろご意見を区民の方から伺う時期になってくると思いますので、ぜひ、いろんな面でご意見を、全体としてどうなるかというのは保証はできないんですが、いろんなご意見がある中でそういう形ができてくると思います。今のお話のようなご意見とか、また別な視点でのご意見とかあると思います。これから多分そういう意見の聴取の場というのが出てくると思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

ほかにございますか。どうぞ。

○委員　すみません。ありがとうございます。ちょっといろいろお時間もあるので意見もというところで、この資料4の課題のその他の課題の1と3に関連して、ちょっと2点ほど発言させていただければなと思います。

一つ目が、1の関連で、こういう、今日来させていただいているここ高円寺図書館も、まさに愛称ふらっとすぎはちということで、複合型の、ちょうど4月にオープンした最新のというところかと思うんですけれども、今、多分、区内いろんな形で、ちょっと広い意味で複合的な施設がどんどん増えてきていると思うんですよね。それはすごくいい、基本的にはいいことだと思いますし、ある意味必然性とか必要性、予算も含めた、というところもあるんだと思います。

そんな中で、個人的には、何か実は図書館って、ちょっと教育という観点で言えば社会教育と学校教育のちょうど際にある。で、かつ、何となく社会的には安心感があって、という、すごく大事な、ちょっと、ポジションというと誤解のある言い方かもしれませんけど、比較的分かりやすい。みんな、図書館と言われて、図書館って聞いたことありませんという人は、多分ほぼいない。分かりやすい。でも、機能的にはちょうど際にあるみたいなところがすごくいいなと。その図書館が、さらにこの施設ガイドを見ると、地下1階には多目的室みたいなのもあって、既存の図書館の概念を超えた複合的な機能も持ってくるというのがもうまさに時代の流れかなと思うので、この、その他の1番にも書いてあるんですけども、やっぱりこういう複合みたいなところが、ちゃんと複合として機能していくためにはというところを、より積極的にチャレンジしていただきたいし、何かチャレンジしていくことがすごい大事だなと思いました。ちょっと抽象的ですけども。というのが期待を込めてのコメントが一つ目です。

二つ目が、3番のボランティアの関係で、これも、ここには音訳ボランティアのお話な

んかが書いてあったり、本の修理、あるいは朗読ボランティアということで、すぎなみ地域大学との連携の話があります。これも、すぎなみ地域大学という区の施策との連携というところでもすごい大事な取組だなと思いながら読ませていただきました。

加えて、こういうボランティアみたいな考え方も、多分これからは、多分さらにより際をなくして考えていくことがやっぱり大事だなと思いますので、恐らくすぎなみ地域大学は、全般的には年配の方が多いと思います。そうじゃないところもあるかと思うんですけども、どうしても生涯学習関係の施策はやっぱそういう傾向があるので、なので、その年配の方がボランティアという一つの王道はもちろんだと思うんですけれども、やっぱりこの地図の中にも、杉並区内にも大学もたくさんありますし、ちょうど今日先生もいらっしゃいますけども、既に図書館連携もある中で、例えば大学とか若者との連携の中で、それをボランティアという言い方になるのか、むしろ実習だったり、あるいはインターンシップみたいな言い方になるのかもしれないんですけれども、やっぱり図書館とかこの複合の施設を知る、体験する、経験するということも含めた、それが若い人たちからすれば経験の機会になるし、この図書館側からすれば、ある意味必要とされる業務を一緒にやってもらえるという、ボランティアという言い方なりにもなるんだと思うんですけども、そういう、何かこういう、人という観点でも、先ほどの施設が複合になるだけじゃなくて、人という意味でも複合的に捉えていく。それが、何か、ともすると、どちらかがどちらを利用するみたいな関係だけではなくて、何かお互いにとって意味のある形で複合的に捉えていく。そんなときにもやっぱ図書館って、根本にある安心の場であるというのがすごく大事なことかなと思いましたので、何かこのボランティアの育成というところも、何かいろんな、多面的にとか複合的に何か捉えていけたらいいなと。

さらに言うと、ここに、またちょっと難しいかもしれないんですけれども、福祉の領域なんかも本当は関わってくると、すごくいいのかなと。多分、本の修理、私も大学の図書館でやらせてもらったことがあるんですけど、あれは多分福祉系のお仕事とかでもめちゃくちゃ向いているんじゃないかなと思う。あの丁寧さと粘り強さと、あと集中できるみたいなところが必要な作業だなと思いましたので、何かそんなところも何かうまく絡められたらいいのかなと。

ちょっと、すみません、現場の苦労は知らずに好き勝手申し上げておりますけれども、その期待を込めてのコメントと受け止めていただければなと思いました。

以上です。

○中央図書館長　ありがとうございます。今、中学生の職場体験なんかでも、やはり図書館に手を挙げる方って、物すごく多いんですよね。で、本当に、ごめんなさいという断りのケースが多かったりなんかします。とにかくこの時期は本当にそういうのをやりたいなという方もいるし、あとは大学のほうで、そういう体験をというような方も出てきているので、そういう方々をうまく活用するという、言い方は変ですけれどもね、やはり一緒になってやっていければと思っています。

それから、やはり私どものほうで、図書館でも、これからは福祉というところに目を向けるというのは絶対必要な部分があるので、先ほどもあったように図書館に来ていただくだけじゃなくてこちらが出向いていく、まさにこの読み聞かせなどはそういうところもあるので、そういう、どんどん裾野を広げていこう、ほかのところといろんな連携を図っていこうというのは、まさに今後図書館を活性化していく一つになると思っているところです。

地域大学で、去年、今年とやっているんですけど、やはり若い方の応募も多いんですよね。本当に30人定員のところに150とか200人というところもあったりなんかして、それをセレクトしていくというのはすごく大変な部分もあるんですけども、私どものほうも、何かいろんな形で協力していただくということを考えていければと思っているところです。

○会長　はい。私、この高円寺の図書館の指定管理のときにちょっと選定にも関わらせていただいたんですが、非常に、まだそちらのグラウンドのほうとか工事が終わっていない部分もあるので、これからこの場所ですね、今まで小学校があった場所で、この地域にすごく思い入れのある方がぜひ関わっていただいて、建物はもうできているんですが、中身を、本当に、おっしゃるとおり、この中にある例えば屋内球技場と図書館が別々ではあまり意味がない。全然複合ではなくて、多分一緒にあるだけという形になるんですが、せっかく運動できる場所が同じ場所の同じ建物の中にある中で、新しいサービスとか住民の方々、特に若い人たちがやりたいことについてサポートしていくような取組を進めていくということがこれから重要だと思います。これが、やっぱり図書館の考え方だけだと、やはり難しいと思いますので、区のほかのセクションとか、ここは指定管理になりますので、民間のほうでの柔軟な考えとかを基に広がっていくと、そういうことを期待を込めて、選定させていただきました。また本当にあの工事が終わって、今度新しい公園という形で広場になっていきますし、隣の保育園もできて、本当にここが多世代、いろんな世代が集まる場所になっていくということがこれから必要になっていくのかな、なんて思います。

私が出た小学校は一昨年閉校になって、そのまま建物の使い道が決まっていなくて、今は単にドラマの撮影で使われたりするんで。やっぱり自分が出た小学校がなくなるって、結構、こんなにショックだとは思わなかったので、もう別にいいやとか、30年も前の話だと思ったんだけど、やはり小学校だった場所がこれから残っていくということが重要だし、新しい子どもさんたちのまたいろんな場所になっていくというところがすごく希望があるかななんて思いますので、ぜひ皆様もご意見とか、あと活用していただけたら、なんて思いますね。はい。

ほかに。まだ発言いただいていない方で、よろしいでしょうか、一つか二つぐらい。よろしければどうぞ。

〇委員　はい。私は高円寺地区地域教育推進協議会というところから今回参加させていただいておりますが、このふらっとすぎはちができる前の杉八小学校のときの最後の閉校にも関わっていた人間です。長い年月をかけて統合するというところで、いろいろ皆さんと意見を交わしてまいりましたが、やはりなくなるからにはここが、小学校って、やっぱり地域の核だと思うんですね。その核を失ってしまったところに、この地域が寂れてしまうんではなく、また新たな核となる施設を造っていただけるんだったら、高円寺のまちにとっていいことだということで、皆さんでいろいろ意見を出し合って、それこそ、駐輪場はたくさんないと、いろんな人が来るんだから困りますよと、公園側のほうにもそれぞれちゃんと設置してくださいねとか、いろいろやっぱり気になることを区のほうに相談しながら、結果的にこういう施設ができたので、今、大変多くの方が利用してくださっているようなので、とてもうれしく思っております。

ただ、やっぱり、高円寺――今日は図書館という集まりなので図書館目線での話でありますけれども、ここはやはり複合施設ということで、図書館以外の部分というところも大事なところで、実はその、前のラウンジは、図書館の昔のラウンジのように、いろいろ雑誌とかが置いてあったり、皆さんが自由に過ごしていただいていいんですけれども、やはり何かいらっしゃる方がやっぱり図書館というイメージがすごい強いみたいで、本当は打合せをしたりとか、みんなでちょっとわちゃわちゃっとお話ししたりとか、そういうふうにしていい場所なんですけど、今は何かちょっと皆さん遠慮して、何か一人一人の時間を楽しんでいる空間になっています。今後、やはり図書館の皆様と、やっぱりここのふらっとの運営者と相談していきながら、よりよい活用がしていただけるといいなと思っております。

あと、ちょっと私ごとですが、孫がおりまして、最近娘たちがこの図書館で本を借りたりとかいうときに、やっぱり母親デビューしたてなものですから、どんな本がいいのかなというときに、ちょっと探しづらいよという話を耳にしたりしていますので、いわゆる司書さん目線での配架の仕方と、やはり利用者目線での配架の仕方とかがちょっと違ってきているのかなと思うので、いろんなアンケートを基に、よりよい、使いやすい図書館になっていただけるといいなと思います。

以上です。

○会長　ありがとうございます。

何かございますでしょうか。

○中央図書館長　私どもがつくった杉並区の図書館サービス基本方針の中で、3番目に「楽しい交流空間」というところがあります。で、こういうような複合施設の中で交流をという話をしているんですけど、実は図書館側から交流をどういうふうに仕掛けていくかというのはなかなか難しいんですよね。これは23区の私たちの集まりで話しても、やっぱり言うんです、交流が大事だよね、居場所が大事だよね、と。でも、図書館としてそれをどうやって仕掛けていけばいいのかというのは、すごく難しい部分がある。

さっきおっしゃったように、図書館は静かに本を読むところという概念がすごくある中で、交流を持ってきたところで違うじゃないか、水と油じゃないかということを言われる中で、いかにそこをうまくやっていくかということを、ミキシングしていくかというのはすごく問われるところでもありますし、何かいい知恵がないかなと、日々、私なんかも思っているところなんですけれども。

その辺のところの、今後新しい図書館をつくっていくときには、こういうふうな仕込みをしていくとその辺が達成できるんだよとか、こういう仕掛けをしたほうがいいんじゃないかというのを、もし、そういうご意見も頂けると、すごくありがたいなと思っているので、この場だけじゃなくて、今後もいろんなところでお伺いすることになろうかと思います。こんなふうにしたらいいんじゃないのという、いろんな意見を頂ければなと考えているところです。ありがとうございます。

○会長　どうぞ。

○委員　すみません、前にもしかしたらちょっとお話ししたかもしれないんですけども、複合という話が出てきたので、福島県の須賀川の図書館、あの建物自体も複合で、複合の建物の中に図書館のコーナーと図書館以外のコーナーって分けていないで、建物全体が資

料を配置する。子育てコーナーの近くは、あれは公民館か何かの管理だと思うんですけども、そこにも図書館の子育ての資料を置く。そういったような、場所に応じて資料を置いていくということで利用度を上げているというのも見たんですけども、こちらも複合施設になっていて、多目的室ですか、何か運動できるところに、せっかくあるんであればスポーツ関係の資料を充実させてそこに置いたり、楽器の練習ができるんであれば音楽の資料とか楽譜を置くとか、何かそういったことで資料が生きていくような使い方というのができるんじゃないかなと思いました。ちょっと参考になればと。

○会長　ほかにございますでしょうか。

　どうぞ、委員。

○委員　図書館に望むとなりますと、各図書館、いろいろとイベント的なことをやっていますよね。とてもすてきなことだと思うんですけれども、いわゆる図書館として独自に事業展開、例えば科学系のことをやるのが夏休みしかないとか。そうすると、そのときにしか来られない子だけ。また、多分結構応募が多かったりとかすることもあると思うんですけれども、何というんでしょう、事業として科学系のことをやる。あと、作るという、物を作るという視点も、何か図書館には必要なのではないかなと思うんですね。そういうのを、独自に図書館側としての事業展開をしていってくれると、もっと図書館利用も増えるのではないかなと思うんです。

　以前お願いというか、したことがあったんですけど、高齢者、出かけられない高齢者の方たちって、いるんですよね。よく、何ていうんでしょう、奥さんに頼んだりとか娘に頼んだりとかという。でも、人の本を選ぶのってとても難しいし、昔あった「たびびとくん」じゃないんですけれども、本を、昔は子ども向けだったんです。でも、今度、高齢者向けに「たびびとくん」とかがあると、近くにいる高齢者はちょっと公園とかに出かけて選べるといいなとかって、思ったりもするんですけど。最近、小型のトラックの図書館というのも結構あちこち見えてきていたりとかして、まあ、杉並区は図書館が多いですからね、それまで望むのもぜいたくかとは思うんですけれども、でも、あるといいなと思う図書館です。

○中央図書館長　まさに、今、委員がおっしゃったような形で、出向いていくということが、やはりこれ、一つ必要だなと思って。例えば商品名を出しちゃいますが、LiBOONというような形で、軽トラックに本を積んでいくというのが、各地で行われているのがあるんですよね。私たちも今考えているのは、例えばそれを、高齢者とか障害者の施設に行くと

か病院に行くとか、そういうような出向いていくという方法ができるのかなということが話題に出ているところです。費用の問題とかも手数の問題とかもあるんですけども。やはり図書館も待っているだけではないという形にしないといけないと思っているので、何かいい手だては、最善の手だてで杉並らしさというものを追求できればなと思っているところです。

○会長　はい、どうぞ。

○委員　すみません。図書館の方たちにとって大変なことだろうとは思うんですけれども、私は青少年委員として長く小中学生と関わってきている中で、やはり、例えば杉並区の中に埋もれているお話って、結構あったりすると思うんですね。一時期関わっている中学校でですね、寅薬師というのが和田のほうにあるんですけども、寅薬師にあの小中学生を連れていってその由来をお伺いして、支援していた団体のほうがそのとき出てきたおまんじゅうをここで食べましょうみたいな感じの経験をした後で、絵本を作ったんですね。で、そういう、近所の埋もれている、民話的なものとかを絵本にする作業があって、そのときは中学校の司書さんが関わってやってくださっていたんですが、司書さんの域を超えてしまうそういうことだったので、結局続かなかったんですけれども、今回、もしこういう、高円寺図書館のほうで出向くというようなことができるのであれば、特にここが複合施設なので、両方で関わったアート的な部分と絵本的なところとかを融合させて、何かまたそういう事業とかができたら、子どもたちも地域に愛着が湧くと思いますので。で、各館それぞれ、やっぱりいろいろ、ちゃんとそういうものは近所にあると思うので、何かそういう地域おこしを兼ねたそういうこともできたらすばらしいなと、大変さを分かってはいるんですけれども、何かちょっとこんなことができたらいいなと思っているので、発言させていただきました。

○中央図書館長　ありがとうございます。指定管理の方々ともいろいろ話をする中で、やっぱり優れていると、杉並区、ああ、すごいなと思ったのは、各それぞれの指定管理の方々が地域に出向いていって、地域の人材といかにタイアップしていくかとか、それからそこにいる方々を講師で呼んだりですとか、すごい熱意があるんですよね。その一環として、今の話のようなことがどこかしらでやっていけるのかなと思いますし、一つ、こうやったんだよという成功体験があれば水平展開できると思いますので、そういう情報の連携とかも図っていければなと思っています。それはどこからやるかというのは私の後ろに座っている者に期待したいと思いますので、よろしくお願いします。

○会長　はい。ちょっと時間もですが、何か、ほかに言い足りないこととかあれば。

委員、どうぞ。

○委員　図書館からの発信といいますか、イベントとか、あるいは複合施設での交流みたいな話とかが出ていたかと思うんですけども、本で交流といったら、やっぱビブリオバトルなんじゃないですかと。こういう部屋とかもあるわけですし、こういう、多目的室でビブリオバトルをやりますと。上にある本を使って何かやりましょうとか、あるいは学校対抗みたいな形にして、この周辺の学校に呼びかけて参加してもらうとか、で、地域の方も見物に来て、どの本を一番読みたいかみたいな形でやっていったら、それは交流になるんじゃないかなと思ったんで、せっかくこういう場所があるんですから、検討してみていただけたらなと思いました。

○中央図書館長　はい。ありがとうございます。やはり、今のは一つの示唆かなと思っております。

あと、中学生でも、ほかの館でやっているんですけど、中学生がお勧めする本ということで自分たちがPOPを作ったりして、私はこういう本をお勧めしますよということも行ったりしているので、そういうところを皮切りにしながら交流できたらなと考えているところです。

○会長　はい。それでは、全体として、ある程度時間が過ぎましたので、本日様々なご意見を頂きまして、図書館側のほうにも非常に参考になったと思います。また、今後協議会の中で思いついたこととか、先ほど申し上げたとおり、今後、宮前図書館とかが具体化していく中でまたご意見を伺うことがあると思いますので、ぜひ、皆さんと、皆さんの周りの方々の様々なご意見をぜひ上げていただけたらと思います。それでは、意見交換はこれくらいにさせていただきたいと思います。

その他、事務局のほうから、連絡事項等ございますでしょうか。

○管理係長　はい。事務局からは、今年度の図書館協議会及び部会の開催について、年間のスケジュールをご案内させていただきます。

今日、席上配付しました資料で別紙というものがありまして、令和7年度区立図書館協議会の年間スケジュールということでお示しさせていただきました。もろもろの都合で日程調整させていただきましたので、お忙しいところを恐縮なんですが、ご出席の予定を頂ければというふうに思っております。また、正式な開催通知につきましては、それぞれ日程が近づきましたら、担当のほうからご連絡させていただきたいと思います。開催スケジ

ュールにつきましてご理解いただければと思います。よろしくお願いいたします。

〇会長　はい。かなり先の予定となりますが、ご予定を頂ければと思いますので、よろしくお願いいたします。

　その他、よろしいでしょうか。

（　なし　）

〇会長　特になければ、こちらで令和7年度第1回の図書館協議会は終了させていただきます。議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

　それでは、以上で終了とさせていただきます。お疲れさまでした。